

# 豊頃町子どもの読書活動推進計画 (改定版)

平成31年 3月

豊頃町教育委員会

## 目 次

第1章	子どもの読書活動推進計画の基本的な考え方	1
1	計画改定の経緯	1
2	計画の性格	2
3	計画の対象と各期の特徴	2
4	計画のめざす将来像	3
5	計画の目標	4
6	計画の期間	4
第2章	子どもの読書活動推進のための取組	5
1	家庭、地域、学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進	6
(1)	家庭・地域における子どもの読書活動の推進	6
(2)	学校等における子どもの読書活動の推進	10
2	子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備	14
(1)	家庭・地域における子どもの読書環境の整備	14
(2)	学校図書館の整備	15
(3)	子どもの読書活動の推進に関する体制の整備	16
資料		
1	児童・生徒の読書活動に関するアンケート調査結果	18
2	小中学生の読書活動に関する保護者アンケート調査結果	38
3	幼児の読書活動に関する保護者アンケート調査結果	50
4	子どもの読書活動の推進に関する法律	59
5	文字・活字文化振興法	62
6	図書館法	65
7	学校図書館法	71

## 第1章 子どもの読書活動推進計画の基本的な考え方

### 1 計画改定の経緯

豊頃町では、「報徳のおしえ」<sup>1</sup>を基盤として、豊頃町の未来、日本の未来を担う子どもたちが郷土の良さを知り、夢や希望に向かって逞しく成長するために、地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育む取組を進めているところです。

その中で読書活動<sup>2</sup>は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」<sup>3</sup>第二条）であり、社会全体でその推進を図っていく必要があります。

このような中、国や道では子どもの読書活動に関する計画を策定し、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、環境づくりが進められています。

豊頃町においても、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるように、学校や町図書館などの関係団体、民間団体が連携・協力し、子どもの発達段階に応じた読書活動を家庭・地域・学校において積極的に推進することを目的として、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」と「生きる力をはぐくむ北の読書プラン（北海道子どもの読書活動推進計画〔第三次計画〕）」に基づき、平成30年3月に「豊頃町子どもの読書活動推進計画」を策定し、「家庭、地域、学校等を通じた社会全体での読書活動の推進」、「子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備」、「子どもの読書活動の普及・啓発」の取組を施策の柱に据え、子どもの読書活動を推進してきました。

---

**1 報徳のおしえ** 二宮尊徳の教えのこと。二宮尊徳の「報徳訓」や道歌などに書かれている内容全体を指したものをいいます。豊頃町は、不屈の精神で入植した先人や祖父二宮尊徳の「報徳のおしえ」を受け継いだ二宮尊親が、移住民（興復社）を率いて開拓を進めた町であることから、その開拓精神と「報徳のおしえ」を大切に受け継いだまちづくり・ひとづくりを進めています。

**2 読書活動** 本を読むこと、図鑑を見ること、読み聞かせをしてもらうこと、布でできた本に触れること、録音図書のように音声で本を楽しむこと、携帯小説や電子書籍など電子媒体の読み物を読むこと、インターネットなどを用いて調べ物をするなど図書に親しむさまざまな活動をいいます。

**3 「子どもの読書活動の推進に関する法律」** 平成13年12月に施行された、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、そのための環境整備の推進を求める法律。

改定版では、「豊頃町子どもの読書活動推進計画」の策定後に、国や道の計画が第三次計画から第四次計画に移行したことに伴い、現行の第四次計画に基づく計画に改めるとともに、「豊頃町子どもの読書活動推進計画」策定後の取組の成果と課題を踏まえ、子どもたちが読書に親しみ、読書を楽しむことができる環境がさらに充実するように読書活動推進の方向を示す計画に改定しました。

## 2 計画の性格

この計画は、豊頃町の子どもの読書活動の推進のため、学校や町図書館などの関係団体、民間団体が連携・協力し、子どもの読書活動の推進に取り組むための方向性を示すものです。

また、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」と「北海道子どもの読書活動推進計画第四次計画」に基づく計画としての性格をもつものです。

## 3 計画の対象と各期の特徴

この計画は、豊頃町のすべての子どもとその家庭、地域、学校等の町民及び団体が対象となります。この計画で「子ども」とは乳幼児、小・中学生をいいます。

また、子どもの読書活動は、発達段階に応じて取り組むことが重要であることから、この間を大きく3つの期間（乳幼児期、小学生期、中学生期）に分けて、各期における特徴に応じて推進します。

### (1) 乳幼児期（0歳～6歳） 「本に出会う」

3歳までには、徐々に自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになるとともに、文字の存在を意識し絵本に興味を示すようになります。この時期は絵本や物語などに親しみ、保護者等の周りにいる大人からの語りかけや言葉のやりとりを通じて、気持ちを通わせることが大切です。

4歳以上になると、日常生活に必要な言葉が分かるようになり、かな文字も全部読めるようになってきます。この時期は、絵本や物語を読んでもらうことなどにより、その内容を自分の経験と結び付け、想像を巡らせるなどして、読書の楽しみを十分に味わうことが大切です。

### (2) 小学生期（6歳～12歳） 「本に親しむ」

低学年は、本を読む習慣が付き始める時期であり、文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってきます。この時期は、読

み聞かせなどにより、いろいろな本に親しんだり読書を楽しんだりすることが大切です。

中学年は、多くの本を読むことができるようになるとともに、本を終わりまで読み通すことができるようになってきます。この時期は、幅広いジャンルの本に親しみ、読書を通して必要な知識や情報を得るようにすることが大切です。

高学年は、目的に合った本を読むようになり、内容を評価することができるようになってきます。この時期は、日常的に読書に親しみ、読書を通して自分の考えを広げるようにすることが大切です。

### (3) 中学生期（12歳～15歳） 「本から学ぶ」

中学生期は、多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。この時期は、本や文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知るとともに、読書が自分の生き方や社会との関わり方を支えてくれることを実感することが大切です。

## 4 計画のめざす将来像

計画のめざす将来像を次のように描きます。

豊頃町の子どもたちは、家庭や学校で日頃から読書に親しみ、本やインターネット等を使って、わからないことを調べる方法が身についています。保護者や地域の大人は子どもの読書活動に関心を持ち、その意義を理解しているとともに、自らも読書に親しんでいます。家庭では、子どもに読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んでコミュニケーションを図ったり、本のことを話題に会話をしたり、自分が本を読んでいる姿を子どもに見せたりしています。

また、地域では、子どもの読書活動を支援するためにさまざまな機関・団体が連携して読書活動の推進に取り組んでいます。読書活動を通して心豊かで健やかな子どもたちの成長を願う大勢の大人たちが、さまざまな場所で本の読み聞かせやブックトーク<sup>4</sup>などを行ったり、子どもたちが足を運びたくなるような町図書館・学校図書館などの環境を整備したりするなどして、子どもたちに本の魅力を伝えています。

---

**4 ブックトーク** あるテーマにもとづいて、何冊かの本を紹介すること。その本の面白さを伝えることで、聞き手にその本を読みたいという気持ちをもってもらうことを目的とした活動をいいます。

## 5 計画の目標

子どもの読書活動の推進に関して、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」では、子供の読書活動の推進方策として次の7項目が示されています。

- (1) 発達段階に応じた取組
- (2) 家庭における取組
- (3) 地域における取組
- (4) 学校等における取組
- (5) 子供の読書への関心を高める取組
- (6) 民間団体の活動に対する支援
- (7) 普及啓発活動

また、「北海道子どもの読書活動推進計画第四次計画」では、基本目標として次の2項目が示されています。

- (1) 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進
- (2) 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

豊頃町では、国の推進方策や道の基本目標を基に、豊頃町の子どもの読書活動の実態等を踏まえ、計画がめざす将来像を実現するために次のように基本目標を定めます。

- (1) 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進
- (2) 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

## 6 計画の期間

この計画の期間は、平成31年度（2019年度）から2023年度までの5年間とします。

## 第2章 子どもの読書活動推進のための取組

豊頃町の子どもたちは、小中学生の約78%が本を読むのが「好き」「どちらかといえば好き」(児童・生徒の読書活動に関するアンケート調査<sup>5</sup>)と回答しています。一方で、全国・全道の子どもは、対象が異なるために一概に比較することはできませんが、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果によると、「読書は好きですか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、小学校6年生では全国・全道ともに約74%となっており、中学校3年生では全国約70%(全道約74%)となっています。

また、町内の幼児については、すべての保護者が子どもは読み聞かせが「好き」「どちらかといえば好き」(幼児の読書活動に関するアンケート調査<sup>6</sup>)と回答しており、読書活動を好む幼児が多いことが伺えます。

次に、豊頃町における全世代の読書量について町図書館の貸出冊数から見ると、一人当たりの貸出冊数は年間2.37冊で全道平均の4.33冊を下回る結果となっています。(「北海道の図書館」統計 平成30年4月1日現在)

また、児童・生徒の読書活動に関するアンケート調査によると、約21%の小中学生が1か月の読書量が5冊以上と回答している反面、約45%が「1冊～2冊」と回答し、約15%が「全く本を読まない」と回答しており、読書量の十分ではない小中学生が一定程度いる現状が見られます。

読書時間については、約29%の小中学生が平日1日当たり30分以上読むと回答している一方、約19%が「10分より少ない」、さらに約10%が「全くしない」と回答しており、読書習慣が十分に定着していない小中学生がいる実態が見られます。

また、テレビやビデオ・DVDの視聴時間については約25%の小中学生が「平日1日当たり3時間以上」と回答しており、テレビゲーム等の時間については約20%の小中学生が「平日1日当たり2時間以上」と回答していることなどから、望ましい生活習慣の定着を図る取組を推進する必要があります。

以上のような現状から、子どもたちが本の楽しさを感じ、本を読みたくなるようなきっかけとなる取組の推進や読書環境の整備によって、本好きの子どもたちを育むとともに、地域ぐるみで子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図り、読書を生活の中に位置づけていく必要があります。

---

**5 児童・生徒の読書活動に関するアンケート調査** 平成29年8・9月に町内小中学生を対象に実施した読書活動等に関するアンケート調査。

**6 幼児の読書活動に関するアンケート調査** 平成29年8・9月に町内保育所に在籍する幼児保護者と子育て支援センター利用保護者を対象に実施した幼児の読書活動等に関するアンケート調査。

## 1 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進

### (1) 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

家庭は、子どもが最初に読書と出会う場であるだけでなく、読書に対する興味や関心を培う上でも重要な役割を担っている場です。

特に、乳幼児期は、読み聞かせなどを通して親子の温かい人間関係を育むとともに、子どもの精神的な安定感や親への信頼感を養い、基本的な生活習慣や自主性・創造性を培うことが大切です。

保護者が「読み聞かせをする」、「家に本をたくさん置く」、「図書館に連れて行く」などの読書活動の支援をしている場合に子どもが読書好きになる割合が高くなることは、読書活動に関する各種調査の結果に出ているところですが、豊頃町において実施した小中学生の読書活動に関する保護者アンケート調査や幼児の読書活動に関する保護者アンケート調査においても、読み聞かせをしていた（している）場合に子どもが読書好きになる割合が高いという結果が出ています。

このように、子どもの読書活動の推進のためには家庭の働きかけが特に重要となってくることから、町図書館や子育て支援センター、保育所、小中学校等を通して、読み聞かせや読書の重要性について保護者に啓発していくとともに、家庭での生活リズムを見直し、本を介した親子のコミュニケーションの時間を生み出していくことが重要になってきます。

### ア 家庭に対する読書活動の推進

家庭においては日常生活の中で、親や家族と一緒に本を楽しんだり、子どもに読み聞かせをしたりすることによって読書習慣を形成し、子どもが読書に親しむ環境づくりが大切です。また、子どもが読書に対する興味を高めるため、いつも身近に本があり周囲の大人が読書に親しむ姿を見せることも重要です。

#### 【具体的な取組】

- ・ 家読（うちどく）<sup>7</sup>運動を推進して、親子家族と一緒に本を楽しむ時間づくりを呼びかけます。
- ・ 乳児が本に親しむ機会をつくり、親子の読み聞かせによる読書習慣づくりのため、ブックスタート<sup>8</sup>事業の継続に努めます。

---

**7 家読** 家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す取組をいいます。

**8 ブックスタート** 地域の保健センターなどで行われる乳幼児健診の機会に、すべての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら絵本を手渡す運動をいいます。



- ・幼少期から学童期の幼児・児童が本に親しみ、より良い読書習慣を身に付けるため、セカンドブック<sup>9</sup>事業の継続に努めます。
- ・ブックスタートやセカンドブックの開催会場で、おすすめの絵本の展示やブックリスト<sup>10</sup>の配布を行います。
- ・子どもの読書活動に関する保護者向け啓発資料を配布します。

## イ 町図書館での読書活動の推進

町図書館は、多くの人たちが読みたい本を探し、読書を楽しむための場所であるとともに、読書全般に関する利用者の相談や要望に応じる施設として重要な役割を担っています。また、本に関する情報の発信などの利用者へのサービスの向上に努める必要があります。さらに、読書活動を推進する団体やグループの設立に向けて、町民への働きかけや集う場の設定、学習機会の提供を行うことも大切な役割です。

### 【具体的な取組】

- ・子どもたちが町図書館を身近に感じ、気軽に足を運びたくなる場所となるように、読み聞かせ会やお話し会、ぬいぐるみの図書館お泊まり会<sup>11</sup>などの図書館事業の充実に努めます。
- ・図書館フェアや図書館まつりなどのように、多くの人々が図書館に集う機会の充実に努めます。
- ・読書活動を推進する団体の設立に向けて、集う場の設定や学習機会を提供します。
- ・子どもの発達に応じた本の紹介、読書案内を行います。
- ・多様な本の紹介を行い、興味対象を広げる手助けをします。
- ・読書の大切さや意義の理解を高めるため、家庭における取組の支援や実践的なアドバイスをを行います。
- ・子どもの読書活動に関する講習会や研修会を実施してボランティアの養成に努めます。

---

**9 セカンドブック** 赤ちゃんの誕生後に渡す「ブックスタート」に加え、乳幼児期や小学校入学時などに本を渡す運動をいいます。

**10 ブックリスト** 子どもたちに読ませたい本を紹介するなど、ある目的を持って作られた「本のリスト」のことをいいます。

**11 ぬいぐるみの図書館お泊まり会** 子どもたちのお気に入りのぬいぐるみが図書館で過ごす様子を図書館職員が撮影し、子どもたちにレポートすることによって、図書館や本に関心を持ってもらうことを目的にしたイベントをいいます。

- ・読書活動を推進しようとする個人や団体に対して、ボランティア情報の提供やボランティアサークルの紹介などに努めます。
- ・図書館情報の入手や資料情報の検索など、利用しやすい環境づくりに努めます。
- ・他の図書館との連携や情報交換及び図書資料の相互貸借を行い、速やかなサービス提供に努めます。
- ・子どもたちが地域の歴史・文化について学習できるように、資料の収集・保存に努めます。

#### ウ 公共施設における子どもの読書活動の推進

子育て支援センターや小学生が放課後を過ごす学童保育所などにおいて、図書コーナーを充実し、絵本・紙芝居の活用、読み聞かせや対面朗読等の実施による読書活動を推進します。

##### 【具体的な取組】

- ・出前お話し会による読み聞かせ・対面朗読の実施に努めます。
- ・図書館行事やお話し会への参加を働きかけます。
- ・子育て支援センターや学童保育所と連携し、図書コーナーの充実に努めます。
- ・病院やひだまり交流館などの子どもの利用が多い公共施設への図書の長期貸出を継続します。

#### エ 民間団体の子どもの読書活動に対する支援

豊頃町においては、現在、読書活動に関係するサークルや団体は設立されておらず、地域や学校で子どもの読書活動を推進するに当たり、大きな課題となっています。そのため、子どもの読書活動に興味・関心を持つ人々が集う場の設定や学習機会の提供など、サークルや団体の組織化に向けて、町図書館は中心的な役割を果たす必要があります。

現在、町図書館では、読書活動に関係するサークルや団体の設立に向けて、人材の掘り起こしを行い、賛同を得られた住民に図書館や子育て支援センターなどでの読書活動事業に参加・見学してもらうなどの取組を進めているところですが、今後においても、サークルや団体の組織化に向けて、様々な取組を継続・発展させていくことが求められます。

また、PTAや保育所の保護者会、地域づくり協議会などの既存の組織・団体に対して、読書活動の意義を啓発し、各組織・団体における取組を推進していくことが求められます。

【具体的な取組】

- ・子どもの読書活動に興味・関心を持つ人々が集う場の設定や学習機会の提供など、サークルや団体の組織化に向けての取組を推進します。
- ・PTAや保育所の保護者会、地域づくり協議会などの既存の組織・団体に対して、子どもの読書活動の意義の啓発や働きかけを行い、地域における子どもの読書活動を促進します。

オ 障がいのある子どもの読書活動の推進

【具体的な取組】

- ・障がいに応じた図書の提供に努めます。
- ・本を読むことが困難な子どもに、読み聞かせや読書活動の機会提供に努めます。
- ・障がいのある子どもの読書活動を支援する団体等に団体貸出を行います。

カ 町図書館における子どもの読書活動の普及・啓発

- (ア) 「子ども読書の日<sup>12</sup>」や「こどもの読書週間<sup>13</sup>」における事業の実施や子どもの読書活動の普及・啓発

【具体的な取組】

- ・「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」にあわせて、子どもの読書活動に関する普及・啓発に努めます。

- (イ) 「図書館フェア」の普及・啓発

【具体的な取組】

- ・「図書館フェア」（春・夏）にあわせて、子どもの読書活動に関する普及・啓発に努めます。

---

**12 子ども読書の日** 「子ども読書の日」は、4月23日。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を高めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）によって制定されたものをいいます。

**13 こどもの読書週間** 「こどもの読書週間」は、4月23日～5月12日。「幼少の頃より書物に親しみ、読書の喜びを身に付けてほしい」という趣旨のもと、昭和34年に、社団法人読書推進運動協議会によって制定されたものをいいます。

(ウ) 優良な図書資料の普及

【具体的な取組】

- ・展示等による課題図書や北海道指定図書等の貸出を進めます。
- ・読書感想文コンクールの実施に合わせて、優良な図書資料の普及に努めます。

(エ) 各種情報の収集・提供

【具体的な取組】

- ・町のホームページや広報誌等に子どもの読書活動に関する情報を掲載するとともに、SNS等を活用した効果的な情報発信の方法について検討します。
- ・館内掲示による情報の提供を行います。
- ・新聞社や放送局へ図書館事業の情報提供を行います。
- ・さまざまな子どもの読書活動に関する情報を積極的に収集し、その提供に努めます。

(2) 学校等における子どもの読書活動の推進

豊頃町内の小中学校では、「朝読書」の形ですべての学校が一斉読書に取り組んでいます。頻度については、ほぼ毎日から週2回程度と各学校の実態に応じて実施している状況ですが、小中学生の読書活動に関する保護者アンケート調査では、「子どもの読書活動推進のために学校での活動に期待するもの」で約71%の保護者が「読書の時間の設定」を回答しており、読書時間の一層の充実が求められています。

一斉読書以外の特色のある取組としては、教職員によるブックトークの実施や児童会活動での本のクイズ、生徒会による図書だよりの発行・ポスターの作成などが行われています。

一方、読書活動を推進する上での課題としては、学校図書館の専門的職務を担う司書教諭<sup>14</sup>・学校司書<sup>15</sup>の未配置やボランティアの確保などが挙げられます。

---

**14 司書教諭** 小学校、中学校及び高等学校等において、図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集、整理及び保存し、これを児童生徒や教員の利用に供するために設けられた学校図書館の専門的職務に従事する者をいいます。

**15 学校司書** 学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員をいいます。

現状、小中学校の図書担当職員は、図書業務を他の業務と兼ねて行っており、担当者にかかる負担が大きくなっています。

「学校図書館法<sup>16</sup>」では、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない。」(第五条)とされていますが、町内小中学校の規模(学級数)は、同法附則の「司書教諭の設置の特例<sup>17</sup>」に該当し、今後も配置が難しい状況が見込まれることから、学校司書の配置や図書館司書の学校派遣などについての検討が必要です。

また、学校からは多様な人材による読み聞かせやブックトークなどを求める声が寄せられていますが、人材の確保が課題となっていることから、町図書館はもとより、PTAや保護者会、学校支援地域本部等と連携し、読書活動を推進する必要があります。

#### ア 読書習慣の確立と読書指導の充実

子どもが楽しみながら本に親しみ、読書習慣を身につけるために、「朝読書」などの定期的な読書時間や読み聞かせなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れるとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実に努めます。

##### 【具体的な取組】

- ・子どもが本に親しむきっかけづくりとなる「朝読書」などの実施・継続に努めます。
- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教育活動全体を通じて学校図書館を計画的に利用し、読書活動の機会の充実と読書指導の充実に努めます。
- ・読書感想文コンクールへの参加継続・参加者の拡充に努め、読書活動への興味を高めます。
- ・町図書館との連携による学校図書館活動の充実に努めます。

---

**16 学校図書館法** 学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もつて学校教育を充実することを目的とした法律をいいます。

**17 司書教諭の設置の特例** 学校図書館法附則には、「学校には、平成十五年三月三十一日までの間(政令で定める規模(11学級)以下の学校にあつては、当分の間)、第五条第一項の規定にかかわらず、司書教諭を置かないことができる。」と規定されています。

#### イ 家庭・地域との連携による読書活動の推進

P T Aや学校支援ボランティア等と連携・協力し、読書活動の充実を図ります。

##### 【具体的な取組】

- ・休み時間や放課後等を利用して、図書館司書やP T A、学校支援ボランティア等による読み聞かせや朗読、ブックトークなどの読書活動を推進し、子どもたちの本への興味を高めます。

#### ウ 保育所における子どもの読書活動の推進

絵本の読み聞かせや物語の朗読は、未知のものに対する興味や好奇心を高め、感性を高め、創造力を豊かにします。幼児期に本に親しむ機会を多く持つことはその後の読書習慣の定着に大いに寄与します。

町内の保育所においては、町図書館の定期配本等を利用して、図書コーナーの整備・充実を図っていますが、古くなった本の更新や大型絵本や子ども向けの図鑑の配置など、図書コーナーをさらに充実させ、読書活動を推進することが求められます。

##### 【具体的な取組】

- ・町図書館やN P O等と連携し図書コーナーの充実を図るなど、身近に絵本のある環境づくりを進めます。
- ・遊びの中に絵本や物語などの言葉や内容を取り入れ、読書活動への興味を高めるように努めます。
- ・自然体験的な活動に図鑑などを活用するように努めます。
- ・町図書館を活用し、子どもが本に触れる機会の充実に努めます。

#### エ 図書館バスや定期的な団体貸出による子どもの読書活動の推進

町図書館では、町内の保育所・小中学校等に図書館バスの運行や団体貸出による月1回の配本を実施しています。図書館バスの運行については、多くの町民に利用されている一方で、利用者の少ない箇所があるなど、「豊頃町子どもの読書活動推進計画」において、運行の見直しが課題に挙げられていました。これを受けて町図書館では、中学校への図書館バス運行を取り止め、学校図書館内に町図書館の移動文庫コーナーを設けて定期的に配本する形に改めるなど、内容の充実に努めてきました。今後においても、利用者のニーズや利用状況等に応じて、絶えず見直しを行うことが求められます。

##### 【具体的な取組】

- ・利用者のニーズに応じた図書館バスの運行に努めます。

- ・町内の保育所・小学校等への団体貸出を継続します。
- ・配本先の求めに応じた選書を行い、団体貸出の充実に努めます。

オ 学校等における子どもの読書活動の普及・啓発

(ア) 読書活動や学校図書館の利用についての啓発

【具体的な取組】

- ・「学校図書館だより」や「図書委員会通信」等の発行により、読書活動についての啓発や学校図書館の利用促進に努めます。
- ・校内放送や全校朝会を利用して、本の楽しさを伝える取組を推進します。

(イ) 全校集会や読書週間による啓発

【具体的な取組】

- ・本をテーマにした全校集会や校内読書週間など、全校児童生徒が本に触れる行事の実施について検討します。

(ウ) 保護者への啓発

【具体的な取組】

- ・学校便りや学年・学級通信などを活用し、「家読運動」の啓発や図書を紹介などを行います。
- ・PTA総会や保護者懇談会などの保護者が集まる機会に、子どもの読書活動を話題とした座談会や交流会などを実施し、子どもの読書活動の実態や意義について共通理解を図るよう努めます。

## 2 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

子どもの望ましい読書習慣を形成するためには、乳幼児期からの発達段階を踏まえた読書活動に取り組むことができるよう、読書環境の整備を進める必要があります。

### (1) 家庭・地域における子どもの読書環境の整備

公立図書館は、子どもが自分の読みたい本を選び、読書を楽しめる場であり、気軽に利用したいと思われる場となることが求められています。そのため、町図書館は、地域における読書活動の中心的な役割を果たすとともに、住民の誰もが利用しやすい施設としての機能を果たすことが期待されています。

#### ア 町図書館の図書資料・設備等の整備

絵本や紙芝居、大型絵本、しかけ絵本、布絵本などは乳幼児期から本に親しむ機会をつくり、子どもたちの興味・関心を広げるものであることから、これらの図書資料の充実に努めます。また、じゅうたん敷きでくつろぎながら読書活動ができる幼児コーナーや「おはなしのへや」は、親子が安心して本を楽しめる空間であり、一層の充実に図ります。また、小中学校からは、授業等で同一図書や同内容図書を複数冊使用する際の支援が求められており、これらの図書資料について、計画的に購入していく必要があります。

#### 【具体的な取組】

- ・絵本や紙芝居、大型絵本、しかけ絵本、布絵本などの図書資料を整備し、乳幼児が本に触れる機会の拡充に努めます。
- ・幼児コーナーや「おはなしのへや」に育児関係図書を配置するなどして、親子で利用しやすい読書環境づくりを推進します。
- ・学校等から要望のある図書資料の充実に図り、授業等に活用しやすい団体貸出をすすめます。

#### イ 町図書館の機能の充実

町図書館における読書活動の推進に当たっては、図書資料・設備の整備充実が必要不可欠です。図書資料の充実は図書館利用の欲求を高めることにつながります。また、住民が求める情報を得やすくするための環境整備や住民のニーズを反映した図書館運営を進めることが必要となります。

#### 【具体的な取組】

- ・町図書館の開館日や図書の貸出・返却方法等について検討し、利用者の拡充や利便性の向上に努めます。



- ・北海道立図書館及び十勝管内公共図書館等との連携による図書資料の補完に努めます。
- ・ブックリストの作成や本選びの相談、調べ学習に対する支援等の充実に努めます。

#### ウ 障がいのある子どもの読書環境の整備

##### 【具体的な取組】

- ・障がいのある子どもやその保護者が、利用しやすい施設の充実に努めます。

#### (2) 学校図書館の整備

子どもたちが学校生活において、日常読書を楽しむ場や、読書活動、読書指導の場として学校図書館は重要な役割を果たしています。学校図書館の蔵書については、子どもの発達にあった図書や授業に活用できる図書を揃えることが必要となりますが、蔵書冊数の指標の一つに国が定めた「学校図書館図書標準<sup>18</sup>」があり、平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」によると、町内小中学校の蔵書の保有状況は、1校が基準冊数を保有しているものの残りの2校は基準冊数に満たない状況となっています。

基準冊数に満たない2校については、今後も計画的に図書を購入することで保有冊数を増加させ、基準冊数を保有している1校についても、図書の老朽化等による更新が必要です。

また、新規図書の開架に当たっては、図書台帳登録やブックコーティングなどの受入作業が必要となりますが、図書担当職員がこれらの作業を担っている現状があります。

他方で、学校図書館の飾り付けや季節・行事に関連した企画展示は、子どもの読書意欲を高める効果的な取組とされており、現状、各学校では図書担当職員や児童会・生徒会によって取り組まれています。しかし、時間や人員に制約がある中での活動となることから、今後、学校図書館の環境を整備する上で、学校司書の配置やボランティアの確保、図書館司書による支援体制の構築などが課題として挙げられます。

#### ア 学校図書館の図書資料・設備等の整備

##### 【具体的な取組】

- ・学校司書の配置について検討します。

---

**18 学校図書館図書標準** 公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として学級数などに応じて設定した蔵書冊数の標準のことをいいます。

- ・ P T Aや保護者、学校支援地域本部などと連携し、ボランティアの確保に努めます。
- ・ 学校図書館図書標準を目安に図書資料の充実を図り、計画的な蔵書に努めます。
- ・ 町図書館との連携による団体貸出等を活用し、学校図書館や学級文庫の充実に努めます。
- ・ 蔵書の管理・検索・貸出等の業務の円滑化を図るために学校図書館の電算化について検討します。また、町図書館と学校図書館のシステムの一元化による共通データベースの形成や相互貸借のネットワークの構築などについて検討します。
- ・ 図書館司書などの専門家の助言・協力を得ながら、配架図書のレイアウトの工夫や適切な除架を実施し、魅力のある本棚づくりに努めます。

#### イ 学校図書館の壁面環境等の整備

##### 【具体的な取組】

- ・ 町図書館やP T A、学校支援ボランティアなどと連携して、図書館環境の整備に努めます。
- ・ ブックリストの作成、利用案内ポスター、書架サイン等の掲示による利用促進に努めます。

### (3) 子どもの読書活動の推進に関する体制の整備

#### ア 図書館間の協力推進

##### 【具体的な取組】

- ・ 北海道立図書館や十勝管内公共図書館等との相互協力により、町図書館における未所蔵図書等について借受けを推進し、利用サービスの充実に努めます。

#### イ 図書担当職員の研修の実施

##### 【具体的な取組】

- ・ 小中学校や保育所等の図書担当職員に対して、子どもの読書活動に関わる資料や情報の提供に努めます。
- ・ 学校図書館担当者等を対象にした図書担当者会議を実施します。
- ・ 小中学校や保育所等の図書担当職員と図書館職員との合同研修会について検討します。

ウ 図書館司書の研修の充実

【具体的な取組】

- ・子どもの読書活動についての研修により、司書の専門性を高めます。

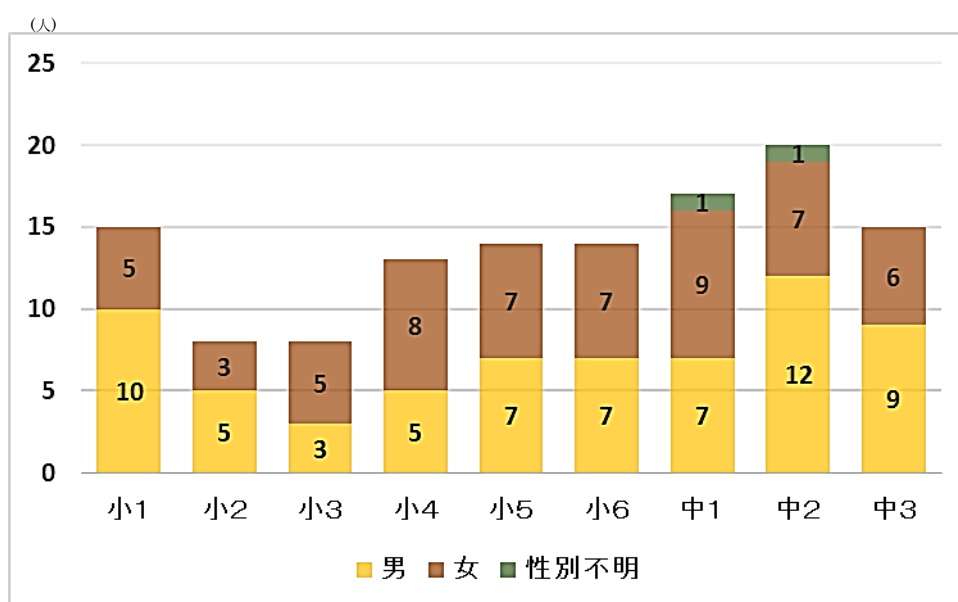


# 資 料



1 児童・生徒の読書活動に関するアンケート調査結果  
(平成 29 年 8・9 月実施)

- 調査対象 豊頃小学校、大津小学校、豊頃中学校の児童・生徒
- 回答した児童・生徒数 124 人
- 留意点 調査結果におけるパーセント表示は小数第一位を四捨五入して整数で表示しているため、合計が 100% とならないことがある。
- 学年・性別



問1 あなたは本（紙の本・電子書籍）を読むのが好きですか？  
(あてはまるもの1つに○をつけてください。)

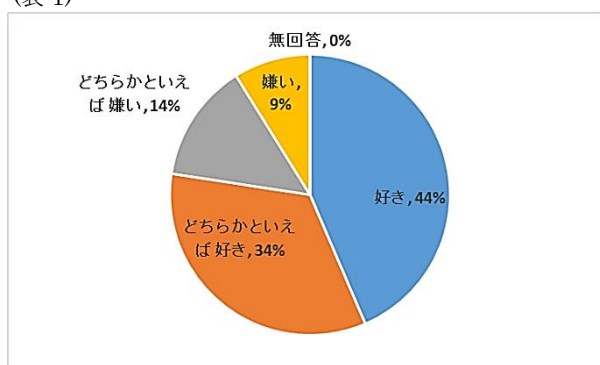
- ① 好き
- ② どちらかといえば好き
- ③ どちらかといえば嫌い
- ④ 嫌い

【全体集計】

「好き」「どちらかといえば好き」の合計は 78% であり、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の 23% を大きく上回っている。

(表 1)

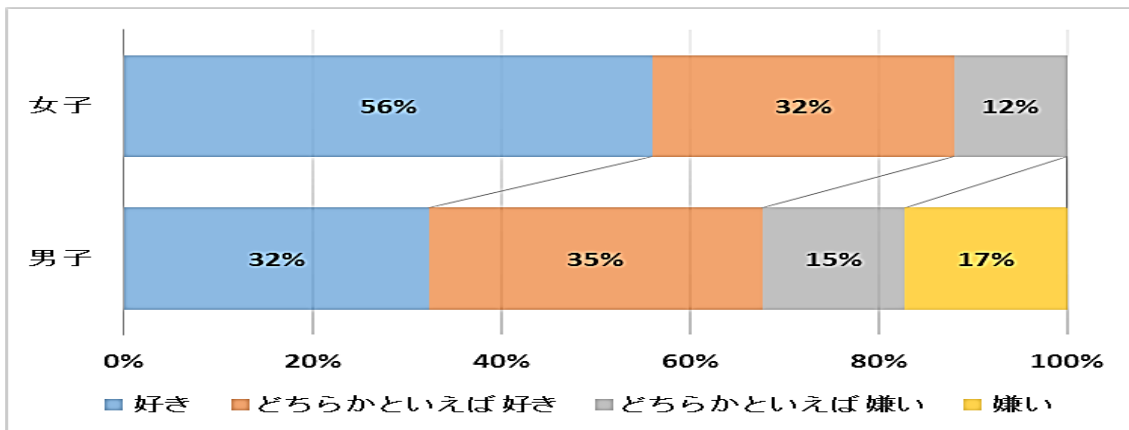
(表 1)



【男女別集計】

男女別では、女子の方が読書を好む傾向が見られる。(表 2)

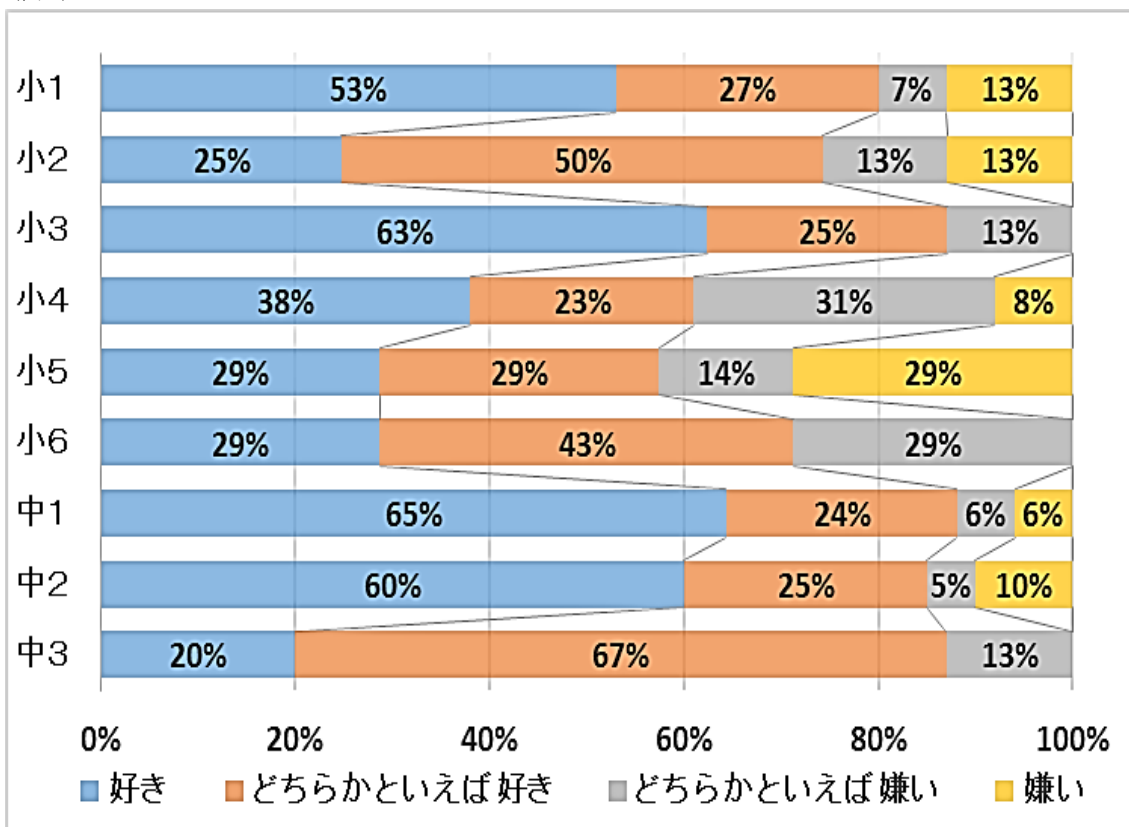
(表 2)



【学年別集計】

学年ごとにばらつきが見られ、全体的な傾向は読み取れないが、全ての学年で、「好き」「どちらかといえば好き」の割合が、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を上回っている。(表 3)

(表 3)



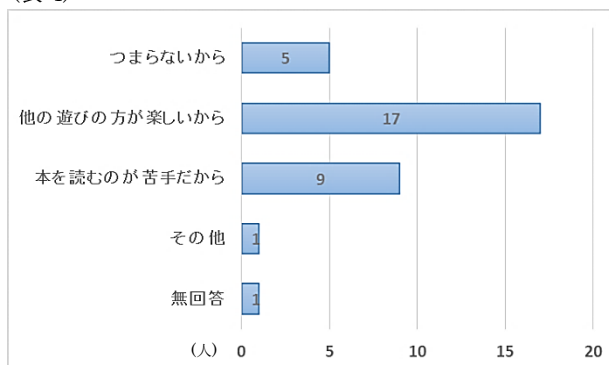


問1-2 どちらかといえば嫌い・嫌いの理由があれば教えてください。  
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- ① つまらないから
- ② 他の遊びの方が楽しいから
- ③ 本(紙の本・電子書籍)を読むのが苦手だから
- ④ その他

「問1」で「どちらかといえ  
 ば嫌い」「嫌い」と回答した28  
 人に理由を尋ねたところ、回答  
 が最も多いのは、「他の遊びの  
 方が楽しいから(17人)」とな  
 り、次いで「本を読むのが苦手  
 だから(9人)」と続く。(表4)  
 その他…面倒だから

(表4)



問2 あなたは1か月に何冊くらいの本(紙の本・電子書籍)を読みますか?  
 (あてはまるもの1つに○をつけてください。)

- ① 10冊以上
- ② 5冊～9冊
- ③ 3冊～4冊
- ④ 1冊～2冊
- ⑤ 0冊

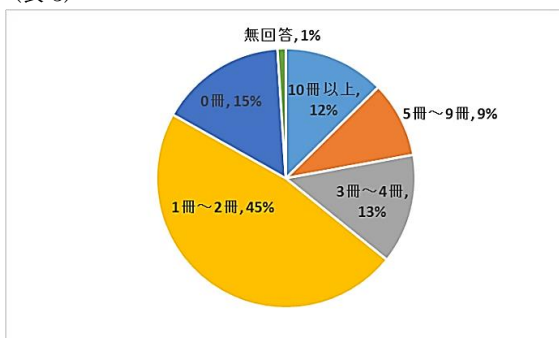
【全体集計】

最も多い回答が「1冊～2冊(45%)」で、「10冊以上」は12%、「0冊」は15%という結果である。(表5)

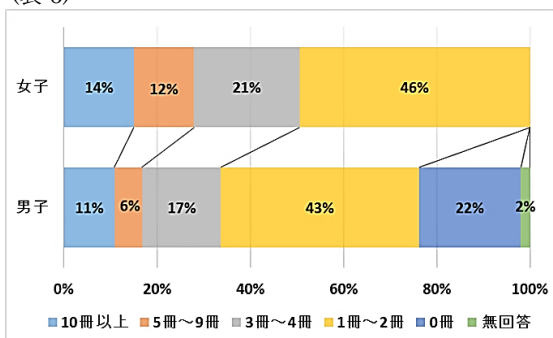
【男女別集計】

男子よりも女子の方が多くの冊数の本を読む傾向が見られる。(表6)

(表5)



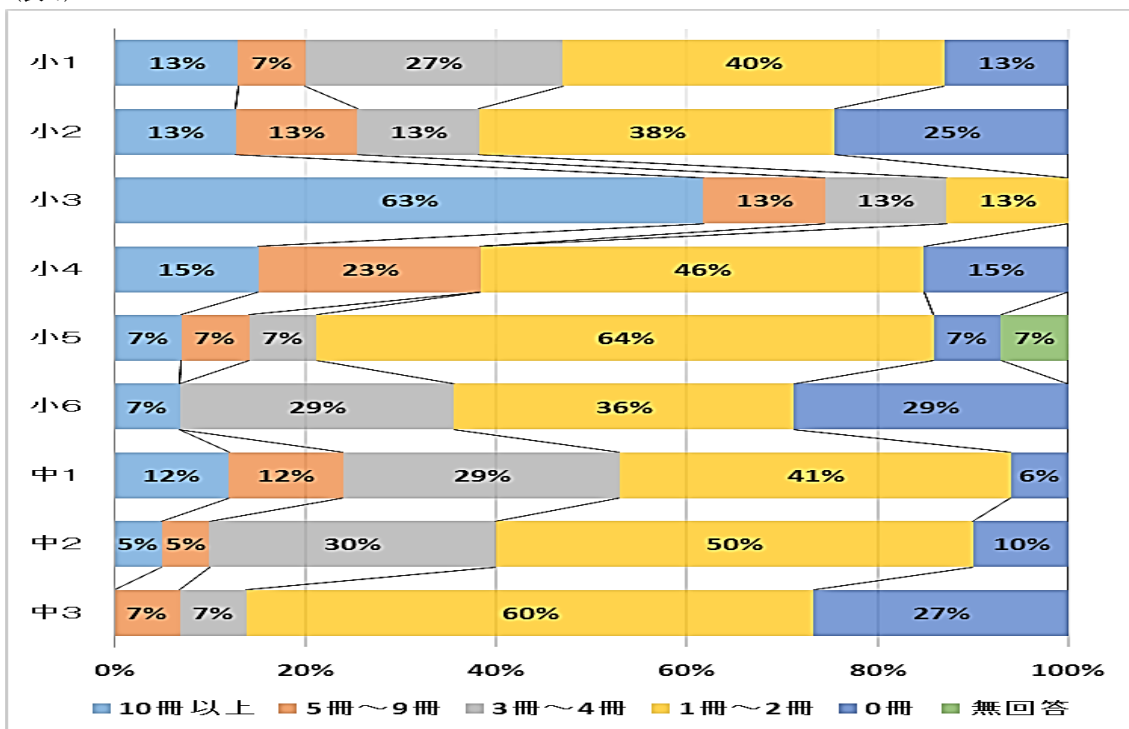
(表6)



【学年別集計】

学年別の集計では、発達段階の違いなどによる傾向は見られない。小学校3年生を除く学年では、「1冊～2冊」の割合が最も高い。(表7)

(表7)

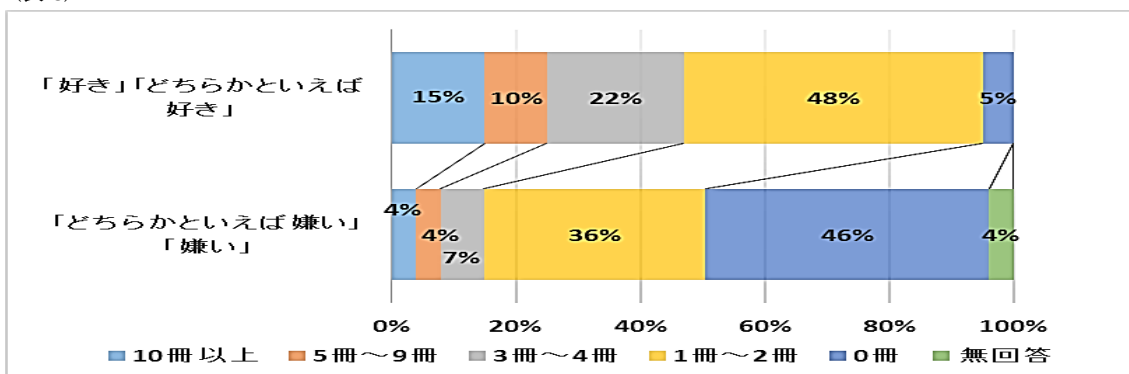


【クロス集計 (問1・問2)】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の1ヶ月間に読む本の冊数

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が多くの冊数の本を読む傾向が見られる。特に「0冊」の回答については、「好き」「どちらかといえば好き」の群が5%であるのに対して、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群は46%と顕著な差が見られる。(表8)

(表8)



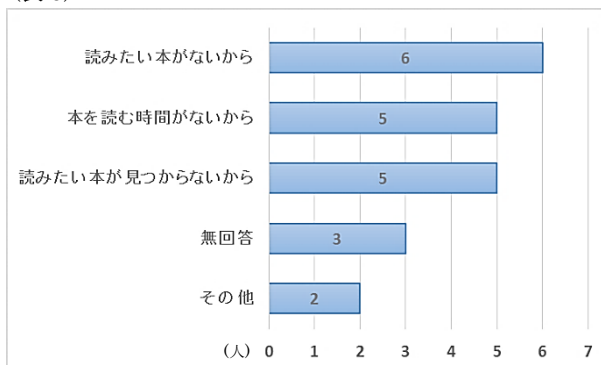
問2-2 0冊の理由があれば教えてください。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- ① 読みたい本（紙の本・電子書籍）がないから
- ② 本を読む時間がないから
- ③ 読みたい本（紙の本・電子書籍）が見つからないから
- ④ その他

「問2」で「0冊」と回答した18人に理由を尋ねたところ、回答が最も多いのは、「読みたい本がないから（6人）」であり、「本を読む時間がないから（5人）」「読みたい本が見つからないから（5人）」「読みたい本が見つからないから（5人）」と続く。（表9）  
その他…本を読むのが好きではないから

(表9)



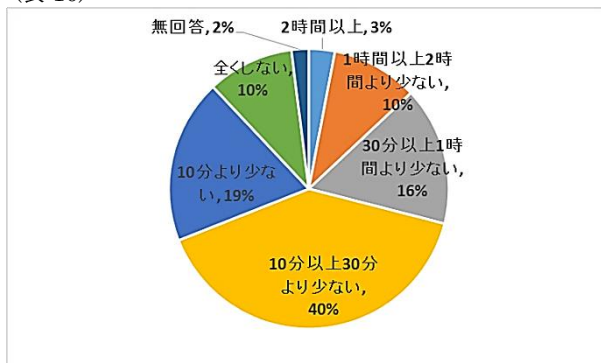
問3 あなたは学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？（※学校での朝読書や休み時間中の読書は含めてください。）（あてはまるもの1つに○をつけてください。）

- ① 2時間以上
- ② 1時間以上、2時間より少ない
- ③ 30分以上、1時間より少ない
- ④ 10分以上、30分より少ない
- ⑤ 10分より少ない
- ⑥ 全くしない

【全体集計】

最も割合が高い回答は、「10分以上30分よりも少ない（40%）」で、以下「10分より少ない（19%）」、「30分以上1時間より少ない（16%）」となっている。また、10%の児童・生徒が「全くしない」と回答している。（表10）

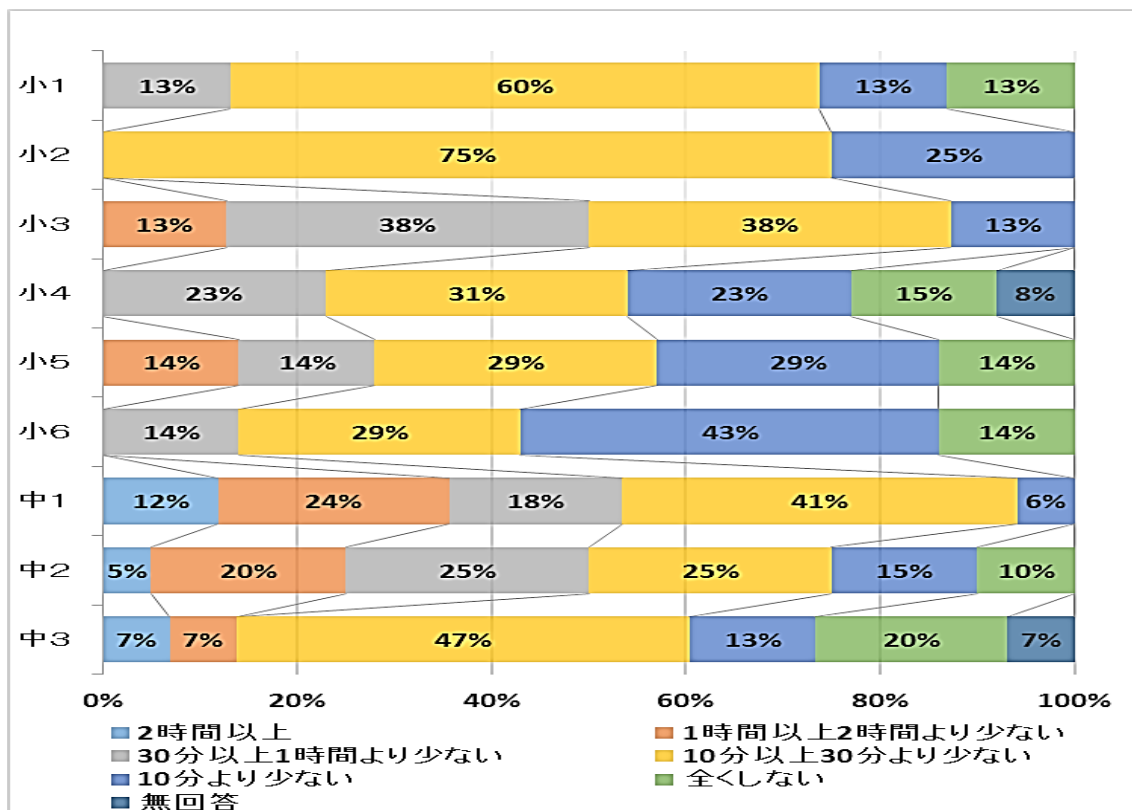
(表10)



【学年別集計】

全体的な傾向は読み取れないが、「2 時間以上」の回答については、小学生ではないのに対して、中学生では5%~12%の割合で見られる。(表 11)

(表 11)

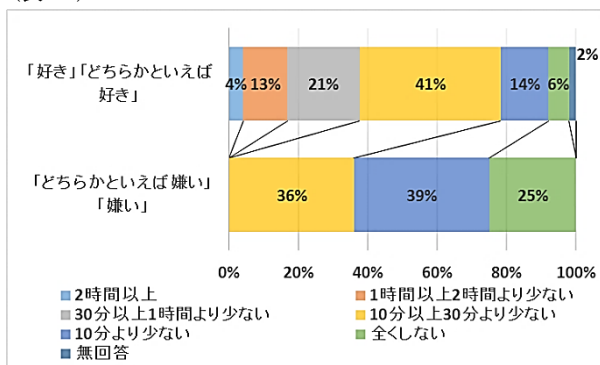


【クロス集計 (問1・問3)】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の平日1日当たりの読書時間

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が1日当たりの読書時間が長い傾向が見られる。「好き」「どちらかといえば好き」の群では、読書時間が30分以上の回答が合わせて38%であるのに対して、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群は0%であり、顕著な差が見られる。(表 12)

(表 12)



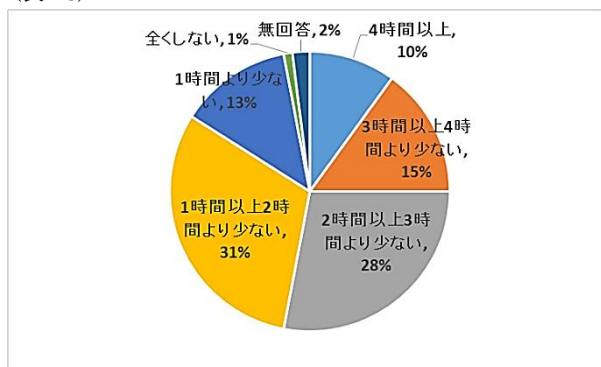
問4 あなたは普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか？（※勉強のためにテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。）（あてはまるもの1つに○をつけてください。）

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上、4時間より少ない
- ③ 2時間以上、3時間より少ない
- ④ 1時間以上、2時間より少ない
- ⑤ 1時間より少ない
- ⑥ 全く見たり、聞いたりしない

【全体集計】

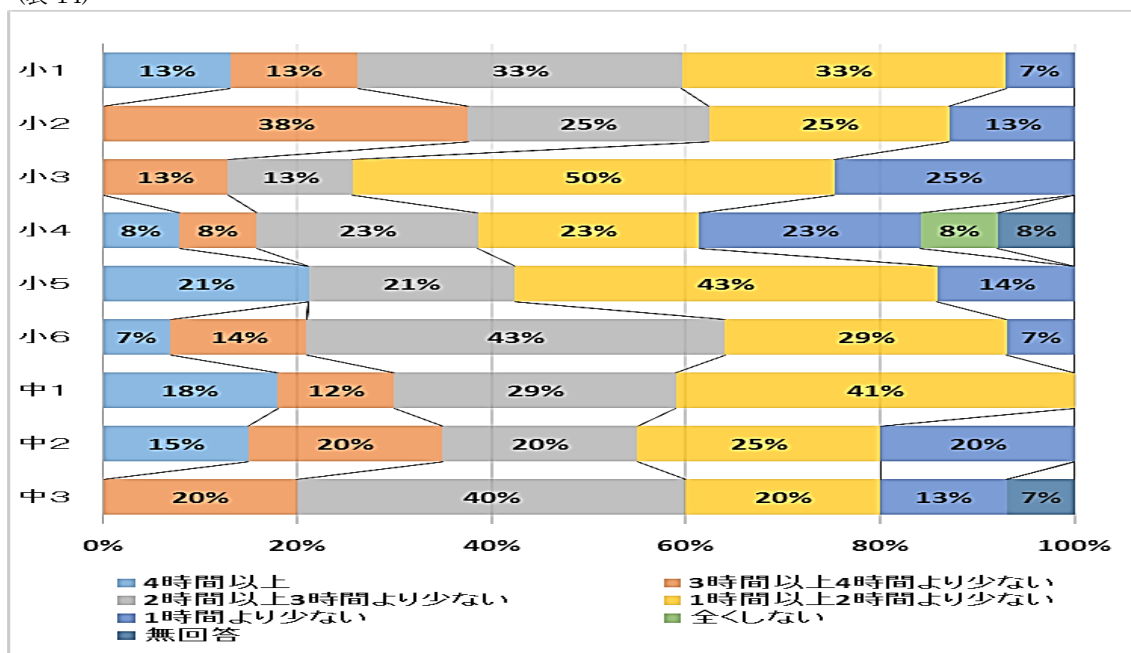
最も割合が高い回答は、「1時間以上2時間より少ない（31%）」である。「4時間以上（10%）」「3時間以上4時間より少ない（15%）」である一方、「1時間より少ない（13%）」「全くしない（1%）」となり、視聴時間が長時間に及んでいる児童・生徒の割合が高い傾向が見られる。（表13）

（表13）



【学年別集計】

学年ごとのばらつきがあり、全体的な傾向は読み取れない。（表14）

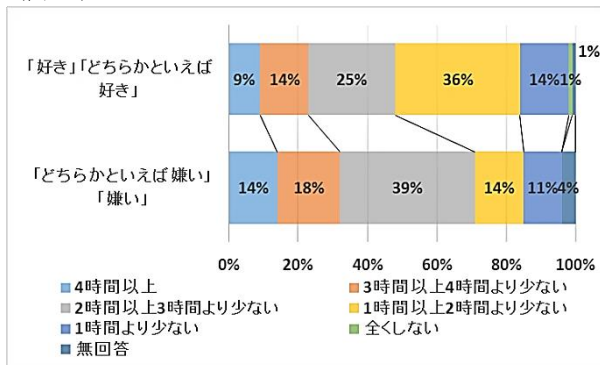


【クロス集計（問1・問4）】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の平日1日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間

(表 15)

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群よりも1日当たりの視聴時間が短い傾向が見られる。(表 15)



問5 あなたは普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか？

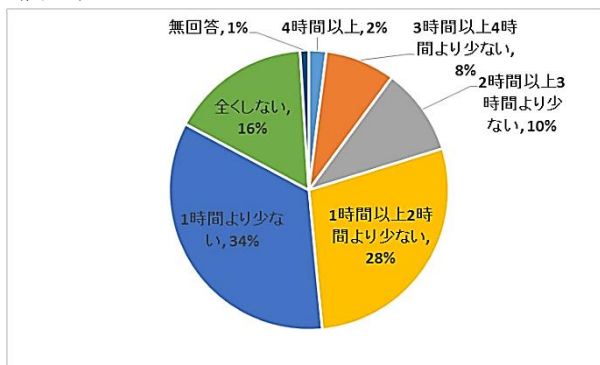
（あてはまるもの1つに○をつけてください。）

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上、4時間より少ない
- ③ 2時間以上、3時間より少ない
- ④ 1時間以上、2時間より少ない
- ⑤ 1時間より少ない
- ⑥ 全くしない

【全体集計】

最も割合が高い回答は、「1時間より少ない（34%）」である。「全くしない」の回答が16%である一方、「3時間以上4時間より少ない（8%）」「4時間以上（2%）」とあり、ゲームの時間が長時間に及んでいる児童・生徒が一定程度いることが伺われる。(表 16)

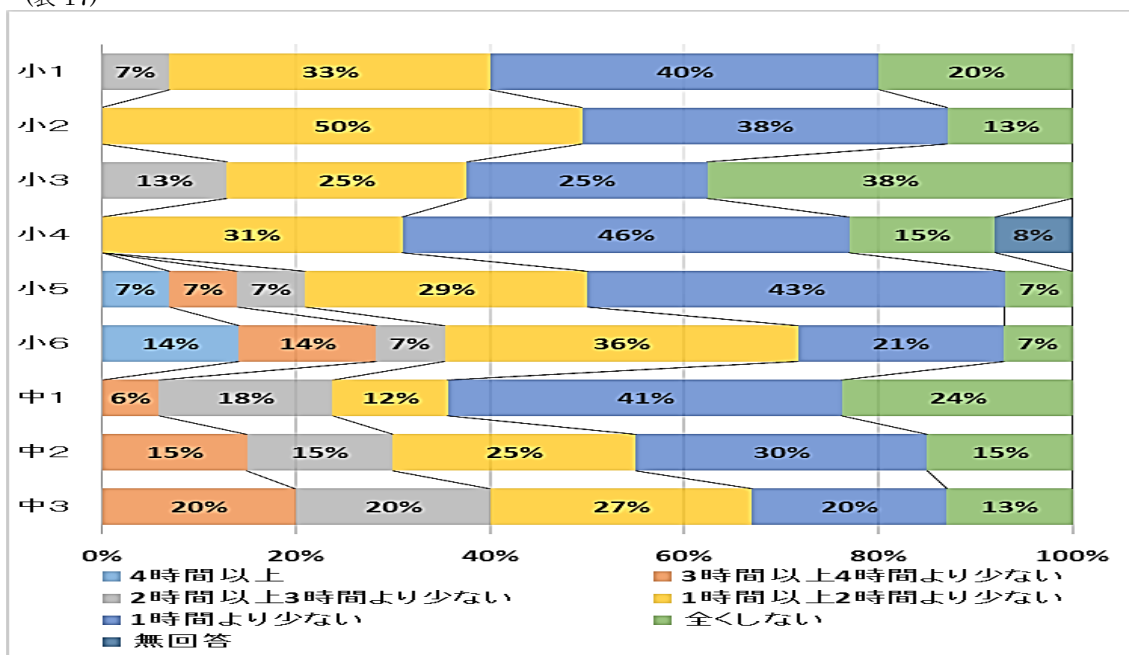
(表 16)



【学年別集計】

小学5年生以上に「3時間以上4時間より少ない」「4時間以上」の回答が見られ（「4時間以上」は小学5・6年のみ）、高学年の方が、長い時間ゲームをする児童・生徒の割合が高い傾向が見られる。（表17）

（表17）

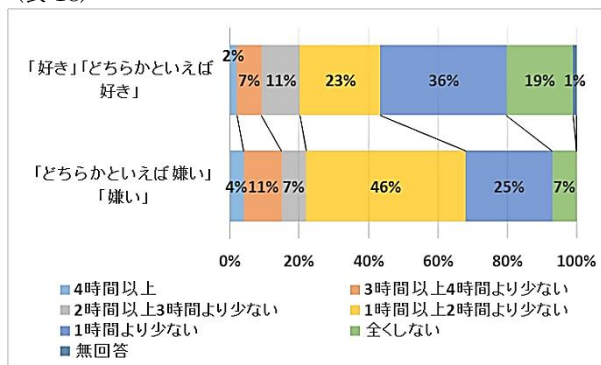


【クロス集計（問1・問5）】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の平日1日当たりのゲーム時間

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群よりも1日当たりのゲーム時間が短い傾向が見られる。（表18）

（表18）



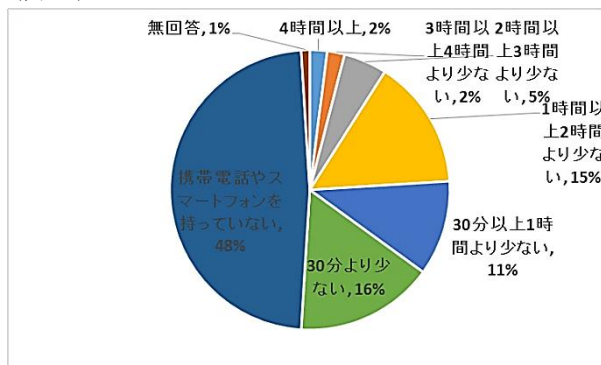
問6 あなたは普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか？（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。）（あてはまるもの1つに○をつけてください。）

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上、4時間より少ない
- ③ 2時間以上、3時間より少ない
- ④ 1時間以上、2時間より少ない
- ⑤ 30分以上、1時間より少ない
- ⑥ 30分より少ない
- ⑦ 携帯電話やスマートフォンを持っていない

【全体集計】

全体の約4分の1の児童・生徒がメールやインターネットをする時間が1時間以上と回答している。（表19）

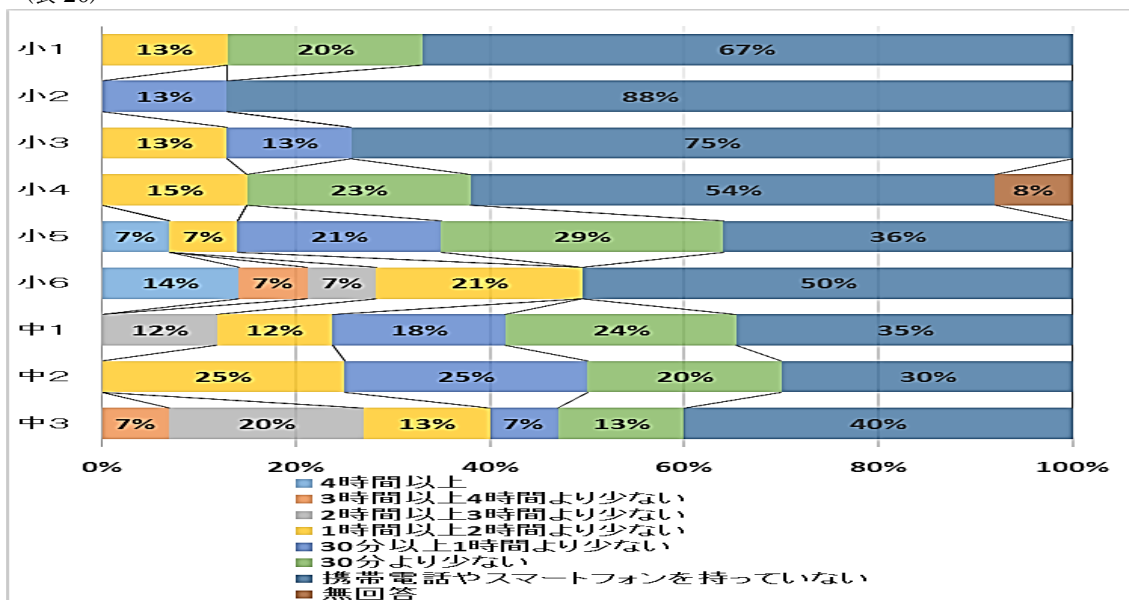
（表19）



【学年別集計】

高学年の方が、メールやインターネットの時間が長い児童・生徒の割合が高い傾向が見られる。（表20）

（表20）



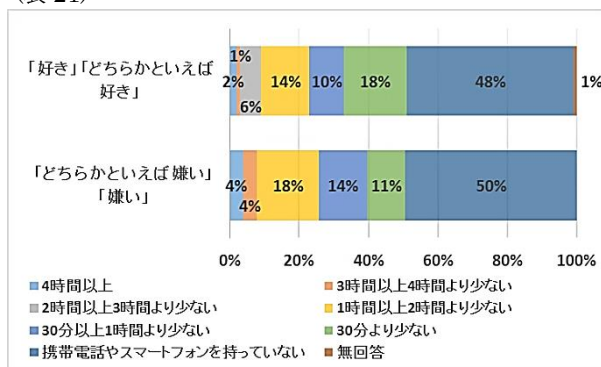


【クロス集計（問1・問6）】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の平日1日当たりのメール・インターネットの時間

平日1日あたりのメール・インターネットの時間については、どちらの群も同じような傾向が見られる。（表21）

（表21）



問7 あなたは学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含めてください。）

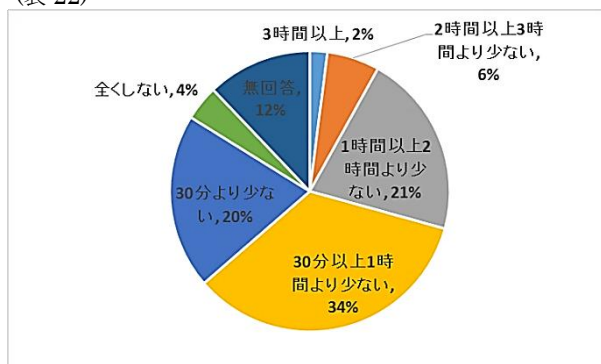
（あてはまるもの1つに○をつけてください。）

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上、3時間より少ない
- ③ 1時間以上、2時間より少ない
- ④ 30分以上、1時間より少ない
- ⑤ 30分より少ない
- ⑥ 全くしない

【全体集計】

最も割合が高い回答は、「30分以上1時間より少ない（34%）」であり、以下「1時間以上2時間より少ない（21%）」、「30分より少ない（20%）」と続いている。（表22）

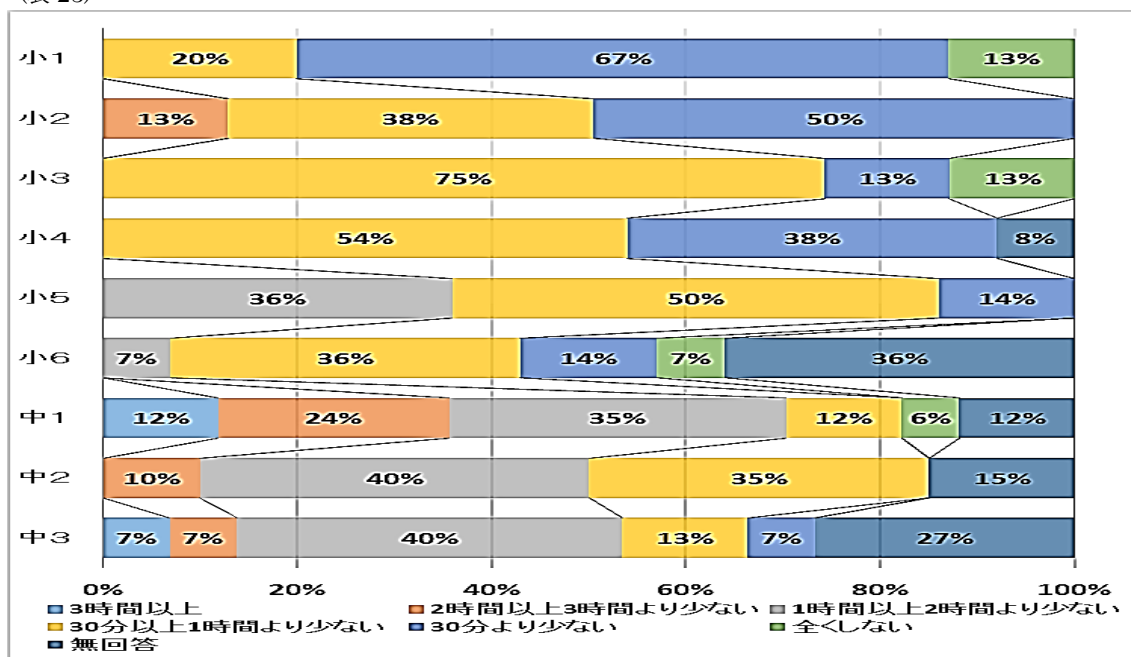
（表22）



【学年別集計】

高学年の方が、平日1日当たりの学習時間が長い児童・生徒の割合が高い傾向が見られ、中学生では「2時間以上3時間より少ない」「3時間以上」の割合が高くなる。(表23)

(表23)

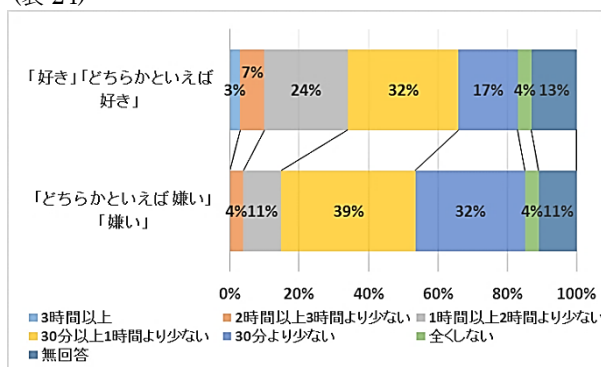


【クロス集計 (問1・問7)】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の平日1日当たりの学習時間

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群よりも1日当たりの学習時間が長い傾向が見られる。(表24)

(表24)



問8 あなたは紙の本や電子書籍でどのくらい読書しますか？

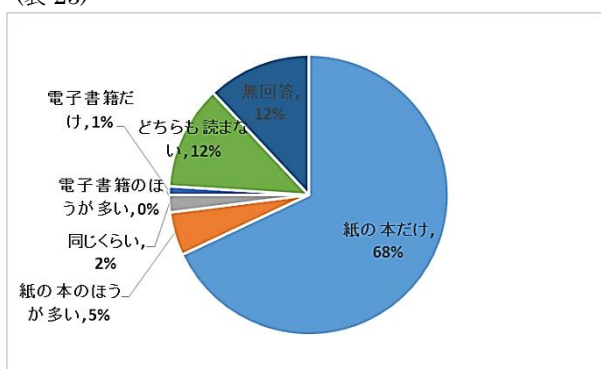
(あてはまるもの1つに○をつけてください。)

- ① 紙の本だけで読む
- ② どちらも読むが、紙の本のほうが多い
- ③ どちらも同じくらい読む
- ④ どちらも読むが、電子書籍のほうが多い
- ⑤ 電子書籍だけで読む
- ⑥ どちらも読まない

【全体集計】

最も割合が高い回答は、「紙の本だけ (68%)」である。また、8%の児童・生徒が電子書籍で読書をする機会があると回答している。(表 25)

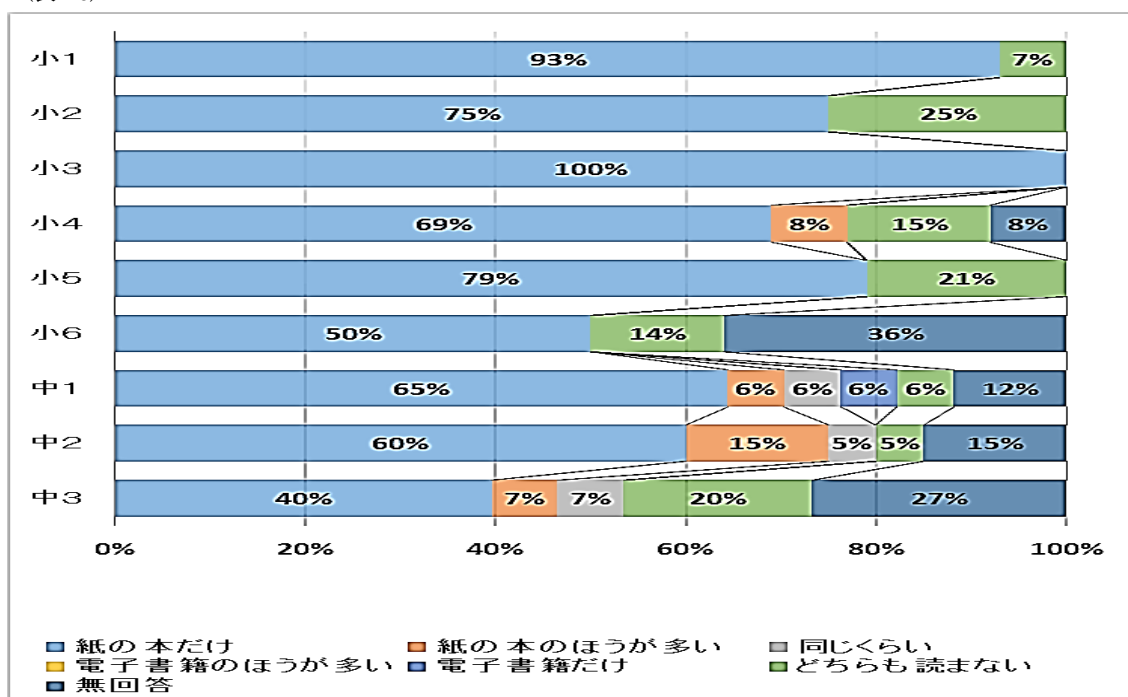
(表 25)



【学年別集計】

すべての学年で、「紙の本だけ」の回答が最も多かった。また、中学生では、電子書籍で読書をするとの回答が一定程度見られるようになる。(表 26)

(表 26)

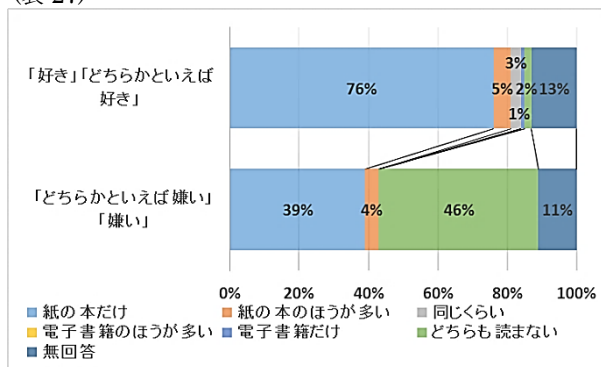


【クロス集計（問1・問8）】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかとい  
えば嫌い」「嫌い」と回答した群の読書時の本と電子書籍の割合

「同じくらい」「電子書籍だ  
け」の回答は、読書を「好き」  
「どちらかといえば好き」と  
回答した群にのみ見られた。  
(表 27)

(表 27)



問8-2 電子書籍を読むときにどのような端末を使いますか？

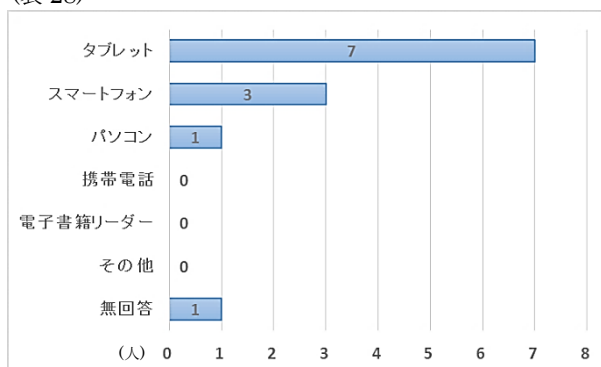
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- ① スマートフォン
- ② タブレット
- ③ パソコン
- ④ 携帯電話
- ⑤ 電子書籍リーダー
- ⑥ その他

「問8」で「紙の本のほうが多  
い」「同じくらい」「電子書籍のほ  
うが多い」「電子書籍だけ」と回  
答した10人に理由を尋ねたところ、  
回答が最も多いのは、「タブ  
レット(7人)」で、次いで「スマ  
ートフォン(3人)」と続く。

(表 28)

(表 28)



問9 あなたはどこで本（紙の本・電子書籍）を読むことが多いですか？  
 （あてはまるものすべてに○をつけてください。）

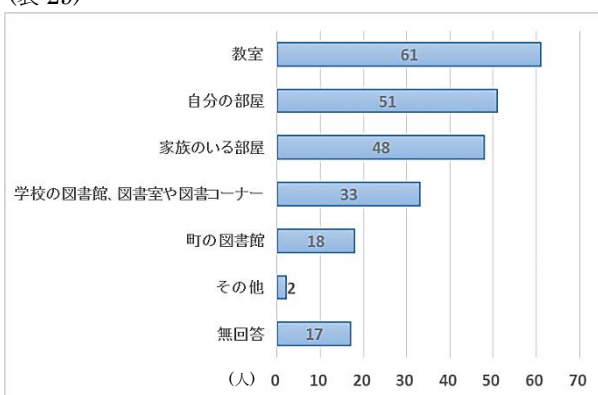
- ① 自分の部屋
- ② 家族のいる部屋
- ③ 教室
- ④ 学校の図書館、図書室や図書コーナー
- ⑤ 町の図書館
- ⑥ その他

【全体集計】

本を読む場所で最も回答が多かったのは、「教室（61人）」で、次いで「自分の部屋（51人）」「家族のいる部屋（48人）」となっている。（表29）

その他…車での移動中  
 外食時や病院受診時  
 などの待ち時間

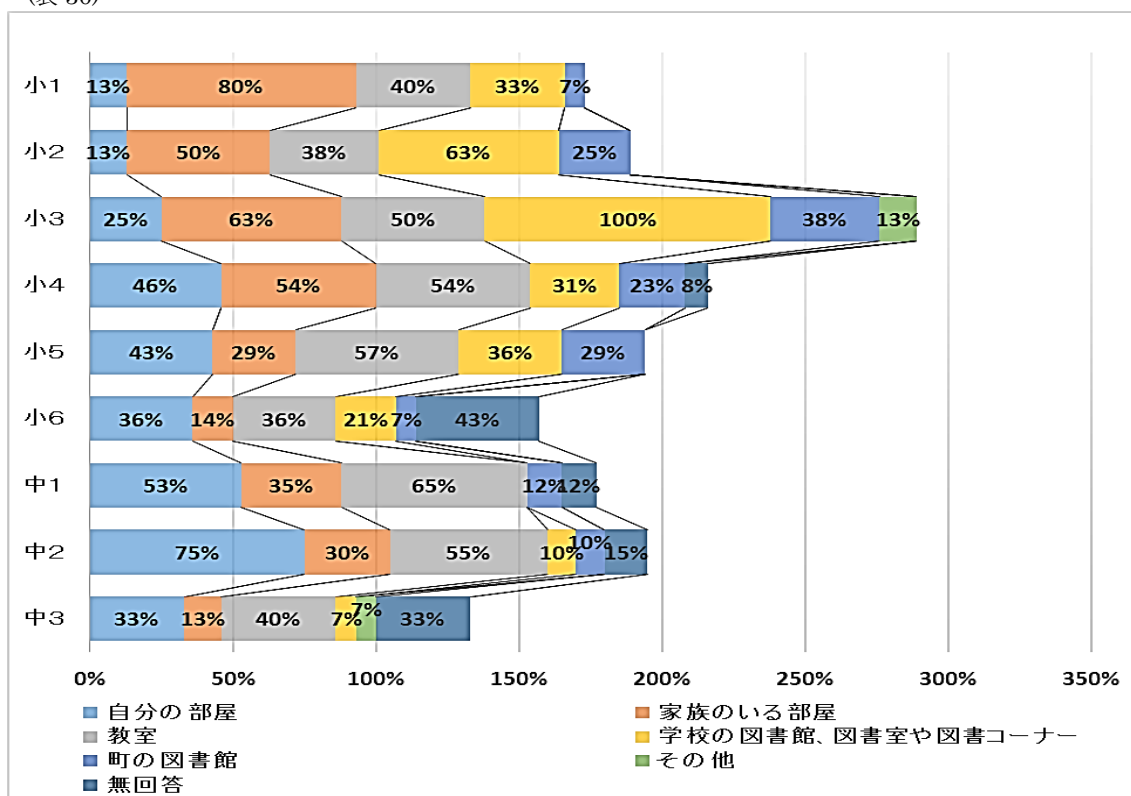
（表29）



【学年別集計】

学年ごとのばらつきがあり、全体的な傾向は読み取れない。（表30）

（表30）

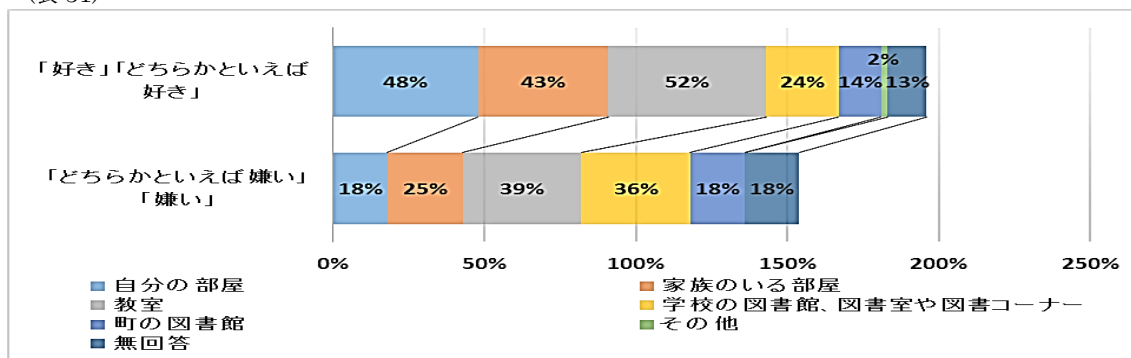


【クロス集計（問1・問9）】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえ  
ば嫌い」「嫌い」と回答した群の読書時の場所

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が、「どちらか  
といえは嫌い」「嫌い」の群よりも読書の場所を多く選択している。「好き」  
「どちらかといえば好き」と回答した群が平均 2.0 個選んでいるのに対して、  
「どちらかといえは嫌い」「嫌い」の群は平均 1.5 個となっている。（表 31）

(表 31)



問 1 0 あなたはどのような内容の本（紙の本・電子書籍）が好きですか？  
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- ① 絵本
- ② 小説・物語
- ③ ドキュメント（本当にあった話や歴史・伝記など）
- ④ 科学もの（科学・動物・植物・恐竜・宇宙・人体など）
- ⑤ 実用書（趣味・スポーツ・工作・料理など）
- ⑥ その他

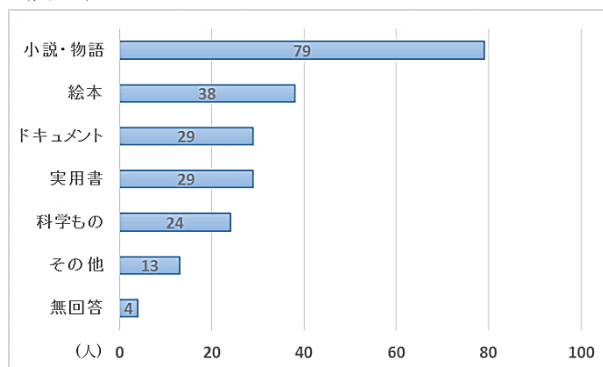
【全体集計】

好きなジャンルについて最も回答が多かったのは、「小説・  
物語（79 人）」で、次いで「絵  
本（38 人）」となっている。

(表 32)

その他…漫画(8 人)、地図、国  
旗の本、妖怪もの、  
エッセイ、ギネスブ  
ック

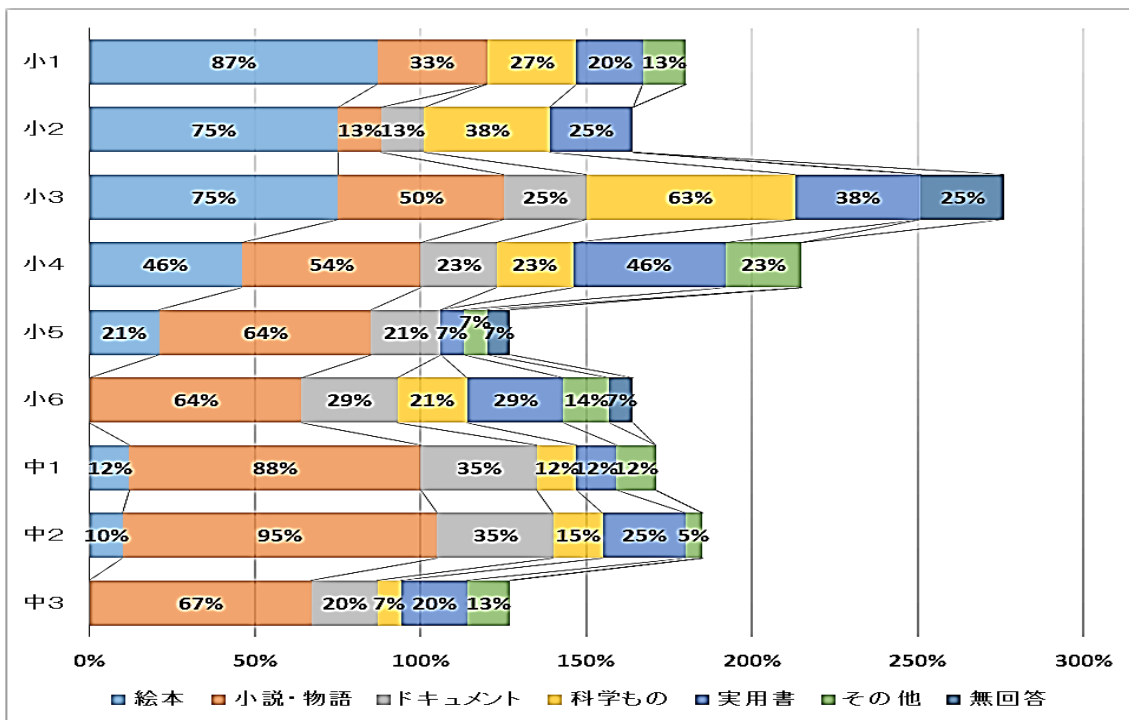
(表 32)



【学年別集計】

低学年ほど好きなジャンルに「絵本」を挙げる割合が高く、高学年ほど「小説・物語」を挙げる割合が高い傾向が見られる。(表 33)

(表 33)



【クロス集計 (問1・問10)】

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した群の好きなジャンル

読書を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群の方が、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群よりも好きなジャンルを多く選択している。「好き」「どちらかといえば好き」と回答した群が平均 1.8 個選んでいるのに対して、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の群は平均 1.3 個となっている。また、好きな本のジャンルに「小説・物語」を選んだ割合が 2つの群では大きく異なっている。(表 34)

(表 34)

